

【伊藤総領事メッセージ 2019 年 2 月】

1 月には総領事公邸において、平成 30 年 11 月 3 日に発表された 2 名の日系カナダ人の叙勲受賞者への伝達を行いました。

1 月 11 日には、フランク・モリツグ氏に対する旭日双光章の伝達式を行いました。日系 2 世であるモリツグ氏は、長い間ジャーナリストとして活躍され、トロント・スター紙や CBC 放送などのカナダの主要メディアのみならず、第 2 次大戦中に日系カナダ人のために情報を提供したニュー・カナディアン紙への執筆・編集や、現在も発行されているニッケイ・ボイス紙の出版・編集にも貢献されました。また柔道家として、カナダ柔道連盟の設立に寄与され、その後も柔道の普及に長年努められたほか、米国のスポーツ雑誌「スポーツ・イラストレイテッド」に柔道に関する初めての主要記事を執筆されたのもモリツグ氏でした。



このような功績から、モリツグ氏はカナダ柔道連盟の終身会員に選出されています。



また、1970 年に大阪で万国博覧会が開催された際には、オンタリオ館の副館長として、同館のスタッフに日本式のおもてなしを教育し、自らも万博開催期間中は現場で陣頭指揮に立たれ、日本とオンタリオとの交流強化に寄与されました。さらに、1988 年の日系カナダ人の戦時収容補償に関しては、日系カナダ人の方々の意見をまとめることに貢献され、その後も自らの体

験を踏まえ、差別のない社会の重要性につき講演を続けていらっしやいます。

1 月 31 日には、カナダ剣道連盟の設立に貢献し、同連盟の会長を 29 年間、また国際剣道連盟副会長を 18 年間務められ、カナダ及び北米における剣道の普及と、剣道を通じた日本との交流を推進したロイ・アサ氏に対し、旭日小綬章を伝達しました。アサ氏は、剣道の普及のため、選手の強化のみならず審判やコーチの研修の機会を整え、日本からの指導者や選手をカナダに招き交流を深めるこ

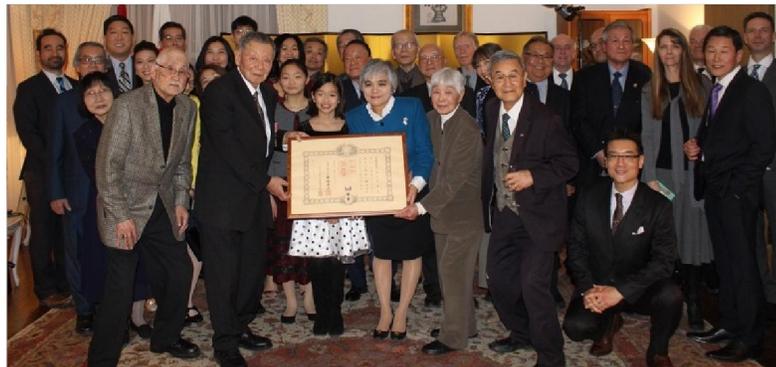


ともにも尽力されました。1991年にカナダで剣道の世界選手権大会を開催するにあたっては、カナダ剣道連盟会長としてその任を十分に果たされ、同大会を成功に導きました。アサ氏は、全日本剣道連盟からも功労者としての表彰を受けていらっしゃいます。現在は第一線からは退かれたものの、今でもお子さんやお孫

さんとともに剣道の練習に励んでいらっしゃいます。

私自身、約30年前にオタワで剣道を練習し、オンタリオ州の剣道大会及びカナダの全国大会に参加した経験がありますが、最近のカナダにおける剣道人口の増加と剣道のレベルの高さは、その当時とは比べものにならないほどになっています。昨年11月に行われた日系文化会館剣道大会には、カナダ全国から参加者が集まり熱戦が繰り広げられましたが、昔は剣道クラブなど存在していなかったいくつもの大学にも今はクラブが出来、チームとして大会に参加しているのを見ると、感慨深いものがありました。礼儀、鍛錬、平常心といった剣道の修行に関連する文化も併せて普及されている様子を見て、アサ氏をはじめ多くの剣道家の方々の努力の結果に対し、改めて敬意を表したいと思います。

それぞれの叙勲伝達式では、この機会に遠方からも駆けつけた多くの家族や友人の方々が受章者とともに喜びを分かちあっておられました。このように多くの



の方々に喜んでくださる様子を拝見すると、叙勲が得られるように作業に関与してきた私達総領事館員にとってもうれしさがこみ上げてくるものです。

外国人叙勲は、日本に関して顕著な功績のあった外国人に対して授与されるもので、概ね50歳以上の年齢であり、概ね5年以上にわたり顕著な対日功績があることが条件となっています。政治・外交関係にとどまらず、学術・教育関係、医療・社会福祉事業関係、経済関係、文化・スポーツ関係、芸能関係など、幅広

い分野での活動が対象となります。日本の国土の2.8倍の広さがあるオンタリオ州の中には、長年にわたり日本との交流や日本文化の普及等に関わっていないが、当総領事館が承知していない「隠れた功労者」の方々も多くいらっしゃると思います。自薦、他薦を問わず、「このような素晴らしい方がいる」という情報をお持ちの方は、総領事館まで御連絡いただければ幸いです。